

9月になったとはいえ、まだまだ残暑は厳しく夏の疲れも出る時期です。夏休み中に人流も多かったことから、感染症が増加する可能性もありますので、お子様の健康観察を注意深く行い、しっかり休養をとるように心掛けてください。

<8月の子どもの様子>

感染症は、メッセージでお知らせしていますが、「溶連菌感染症」、「水痘（水ぼうそう）」が幼児クラスで1名ずつと、「感染性胃腸炎」が幼児クラスで1名、乳児クラスで4名の報告がありました。8月初旬、特に乳児クラスで嘔吐や下痢の症状でのお休みが目立ちました。下旬には、突発的に高熱が出るお子様がいました。また、季節の変わり目になるので、肌荒れ、湿疹等の発疹があれば早めに医療機関に受診して治しましょう。

応急手当 何のためにするの？

放っておいても治るのに、なんで応急手当をしなければいけないの？と考えたことはありますか？火傷をしたら流水で冷やす、鼻血が出たら小鼻を押さえて下を向く。こうした応急手当は、ケガや病気を治すための大事な始めの一步です。すぐに、正しい手当をすれば、バイ菌が入って酷くなるのを防いだり、痛みが減ったりして早く治ることにもつながります。もし、やり方を間違える、何もしないなどすると、もっと酷くなってしまうこともあります。

RICE 処置を正しく行おう

ケガの痛みや腫れを抑え、回復も早くできるのが

Rest（安静）

Icing（冷却）

Compression（圧迫）

Elevation（挙上）

の**RICE**という応急処置です。

この処置には注意点もあります

冷却は凍傷につながることも…

氷を直接当てたり、冷やしすぎたりすると皮膚の組織が凍って、血流も悪くなり、凍傷を引き起こします。
15～20分程度を1時間おきくらいを目安に。

圧迫で壊死することもある…

強すぎる圧迫や長時間の圧迫は神経麻痺や循環障害を起こし、壊死することもある。冷却、圧迫していて、患部が青くなったり、しびれてきたりしたら休憩するなど断続的に行いましょう。

9月9日は救急の日



ケガをしたとき、その場の対処で未来が変わることも。正しい知識と対応で、自分や仲間の体を守りましょう。



靴の選び方



幼児は運動会の練習、乳児はお散歩をすることが増え、靴を履く回数も増えてきます。**間違っ**た靴を選ぶと、足はもちろん、膝や腰の病気につながり、**内臓の働きに影響を与えることもあります**。また、足の健康は体や頭脳の発育のためにも**重要です**。お子様の健やかな成長のために足のサイズをきちんと測り、下記の点に注意し愛情を持った靴選びをしましょう。

<知っておきましょう>

○こどもの足は個体差が大きい

同じ靴でも、肉付きのよい子にはきつく履きにくい、痩せ気味の子には緩くて脱げやすい、ということが多々あります。**「足長」「足幅」「足囲」**をちゃんと測り、足サイズにあった正しい靴を選んでください。

○こどもの足は発育が早い

- ・「どうせすぐ小さくなる」「もったいない」と大きめのサイズを選んでいませんか？
- ・いつの間にか靴が小さくなっていることに気づかずにいることはありませんか？

小さい靴・足の形に合わない靴 → 足の発達障害

大きすぎる靴 → 動きにくいためにこどもの行動範囲を狭めてしまう

☆特に幼少期は足の発育が早く、3～4か月を目安にサイズを測り、適正サイズか確認が必要

○こどもの成長の段階に応じて靴を選ぶ

・1歳～2歳にかけて歩き方がかわります。変化時期はこどもによって違います。よちよち歩きからとことこ歩きになると、運動量も増え汗もかきやすくなるため、通気性、吸湿性の良いものを選びましょう。

・走りだしたら：2歳を過ぎると自我が芽生え何でも自分でやりたい時期なので、自分で着脱しやすいものを選びましょう。上手に履けたら「上手に履けたね」と褒めてあげましょう。

よちよち歩き

とことこ歩き（1～2歳）



<身体測定>

乳児:9日(火)

幼児:10日(水)

よてい
9月の予定

<乳児健診>

16日(火)14:30～

